

マックス・リヒター、
15年ぶり
待望の来日公演!



欧米で絶賛! マックス・リヒター映画音楽最新作



第91回アカデミー賞®
2部門ノミネート!!

『ふたりの女王 メアリーとエリザベス』

3月15日(金)、TOHOシネマズ シャンテ、
Bunkamura ル・シネマほか全国ロードショー!
©2018 FOCUS FEATURES LLC. ALL RIGHTS RESERVED.



『ふたりの女王 メアリーとエリザベス』
オリジナル・サウンドトラック

■UCCH-1052 / ユニバーサル ミュージック合同会社
(国内盤2月20日発売)

■お申込み・お問合せ

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212

トリフォニーホールチケットオンライン www.triphony.com

※オンライン購入にはトリフォニーホール・チケットメンバーズ(無料)へのご登録が必要です。

チケットぴあ..... 0570-02-9999 t.pia.jp

イープラス..... eplus.jp

新日本フィル・チケットボックス(3/2・3/5のみ)..... 03-5610-3815

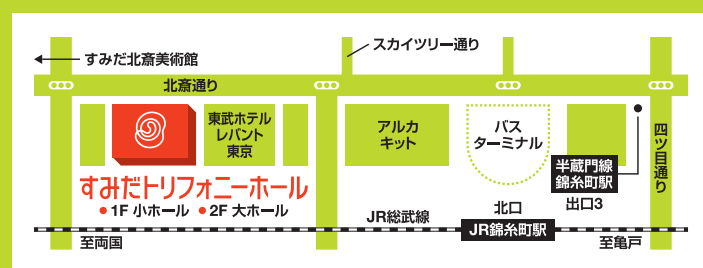
※都合により公演内容の一部が変更となる場合がございます。※未就学児のご入場はご遠慮下さい。

主催: すみだトリフォニーホール 招聘制作: AMATI 企画協力: 前島秀国



助成: 文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

トリフォニーホール [お申込み・お問合せ] 0120-500-315 [平日10:00~17:00]
託児サービスのご案内 (株)小学館集英社プロダクション総合保育サービスのHAS(ハズ)



すみだトリフォニーホール

JR&東京メトロ「錦糸町駅」より徒歩5分 / 東京スカイツリータウン®より徒歩20分

リヒター作品に欠かせない演奏家、アーティストが全員集結。
主要作をすべて演奏するアジア初のレトロスペクティヴ。

ダニエル・ホープ&
新日本フィルハーモニー交響楽団
リコンポズド《四季》

2019年3月2日(土)
15:00開演(14:30開場)

クリスチャン・ヤルヴィ
サウンド・エクスペリエンス2019
《メモリーハウス》

2019年3月5日(火)
19:00開演(18:30開場)

マックス・リヒター
《ブルー・ノートブック》
《インフラ》

2019年3月9日(土)
18:00開演(17:30開場)

マックス・リヒター!
プロジェクト

すみだ平和祈念音楽祭2019 Sumida Peace Memorial Music Festival 2019

Max Richter Project

すみだトリフォニーホール

JR&東京メトロ「錦糸町駅」より徒歩5分 / 東京スカイツリータウン®より徒歩20分

@TriphonyHall @SumidaMusicMMF (すみだ平和祈念音楽祭)

facebook.com/SumidaTriphonyHall triphonyhall

すみだ平和祈念音楽祭2019 その他の公演

タテタカコ ソロ・コンサート

2019年3月3日(日) 17:00開演 すみだトリフォニーホール 小ホール

<トリフォニーホール・グレート・オーケストラ・シリーズ2018/19>

上岡敏之&新日本フィルハーモニー交響楽団

2019年3月11日(月) 19:00開演

ダニエル・ハーディング&マーラー・チェンバー・オーケストラ

2019年3月13日(水) 19:00開演

Max Richter Project

クラシックの伝統と先端的なエレクトロニカを融合したポスト・クラシカルの旗手にして、『戦場でワルツを』『女神の見えざる手』『ふたりの女王 メアリーとエリザベス』などの映画音楽も手がける人気作曲家マックス・リヒター。その音楽は、喧騒という暴力(バイオリン)が溢れ返る世界の中で、聞こえなくなったものを改めて聴かせ、見えなくなったものを改めて見せてくれる力を持っている。

レストランのBGMやスマホの着信音の常套として親しまれているヴィヴァルディの名曲《四季》から、新たな魅力を引き出した《ヴィヴァルディ・リコンポーズド》。些末な日常を忘れさせる荘厳な音楽が、リスナーの心をタブラ・ラサ(白紙状態)に導く「オン・ザ・ネイチャー・オブ・デイルイト」。逆説的かもしれないが、音楽がSNSや配信を通じて洪水のように押し寄せる現代だからこそ、リヒターの曲が志向する心のリセット状態、すなわち平穏(ピース)が求められているのではないか。ミニマリスト的な反復パターンの上で優雅に奏でられる弦楽器と、リヒター自身のリリカルなピアノが聴く者を優しく包み込み、そこにエレクトロニクスを用いた可聴帯域ギリギリのサブソニック(重低音)が重なることで、音数(おとかず)を選び抜いた彼の音楽が心の奥底にズシリと響いてくる。私たちが忘我の境地に誘うリヒターの音楽の旅(ジャーニー)は、ふだん私たちが忘れていたもの——美しい自然、豊かな感情、大切な記憶、そして歴史——をもう一度呼び覚ましてくれるに違いない。

文／前島秀国
(サウンド&ヴィジュアル・ライター)

ダニエル・ホープ& 新日本フィルハーモニー交響楽団 リコンポーズド《四季》

2019年3月2日(土)
15:00開演(14:30開場)

リヒター／
リコンポーズド・バイ・マックス・リヒター
～ヴィヴァルディ《四季》
ヴィヴァルディ／
ヴァイオリン協奏曲集《四季》

ダニエル・ホープ[ヴァイオリン]
北谷直樹[チェンバロ]
新日本フィルハーモニー交響楽団

S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000

※すみだ区割・すみだ学割あり



ダニエル・ホープ
©Nicolas Zonvi

17世紀まで単なる伴奏楽器のひとつに過ぎなかったヴァイオリンに“協奏曲のソリスト”というスターの座を与え、ヴァイオリンの普及と知名度獲得に大きな貢献を果たしたヴィヴァルディ。なかでも、春夏秋冬の季節の巡りを表現したヴァイオリン協奏曲集《四季》はクラシック史上最大の人気曲として有名だ。しかし、その知名度の高さゆえ、逆に食わず嫌いになっているリスナーも多いのでは? リヒターの《ヴィヴァルディ・リコンポーズド》は、《四季》の魅力を再発見できるよう、原曲の要素を残しながら大胆なリメイクを施し、《四季》を再作曲(リコンポーズ)した作品だ。有名なメロディの影に隠れがちな鳥のさえずり、18世紀の音楽とは思えない斬新なリズム・パターン、四季折々の風景をサウンドトラック的に表現した鮮やかな自然描写——。《リコンポーズド》の初演と初録音を手がけたダニエル・ホープが奏でる超絶技巧。さらにリヒター専属のサウンド・エンジニア、クリス・エッカーズが手がけるアンビエント的な音響空間。今回の《リコンポーズド》完全版日本初演は、この曲をCDや配信でしか知らなかったリスナーに大きな衝撃をもたらすはずだ。



『25%のヴィヴァルディ
Recomposed By マックス・リヒター』
ダニエル・ホープ(ヴァイオリン)、マックス・リヒター(モーグ・シンセサイザー)
アンドレ・デリッダ―指揮ベルリン・コンツェルトハウス室内管弦楽団
録音:2012年 ■ UCCH-1037 / ユニバーサル ミュージック合同会社



『フォー・シーズズ』
ダニエル・ホープ(ヴァイオリン)、ジャック・アモン(ピアノ)、
ジェーン・ペルト(ハープ)チューリッヒ室内管弦楽団ほか
録音:2016年 ■ UC06-1765 / ユニバーサル ミュージック合同会社

300年の時を経て甦る
四季折々のサウンドトラック

Daniel Hope & New Japan Philharmonic
Vivaldi Recomposed by Max Richter

クリスチャン・ヤルヴィ サウンド・エクスペリエンス2019 《メモリーハウス》

2019年3月5日(火)
19:00開演(18:30開場)

R.シュトラウス／
交響詩《ツァラトウストラはかく語りき》作品30
リヒター／メモリーハウス(日本初演)

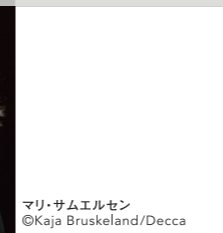
クリスチャン・ヤルヴィ[指揮]
マックス・リヒター[ピアノ、エレクトロニクス]
マリ・サムエルセン[ヴァイオリン]
グレイス・デヴィッドソン[ソプラノ]
新日本フィルハーモニー交響楽団

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500

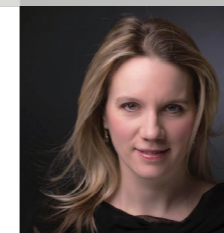
※すみだ区割・すみだ学割あり



クリスチャン・ヤルヴィ
©K. Miura



マリ・サムエルセン
©Kaja Bruskeland/Decca



グレイス・デヴィッドソン
©Susan Porter Thomas



マックス・リヒター
※2018年12月《メモリーハウス》香港公演



新日本フィルハーモニー交響楽団
©K. Miura

両音の効果音が会場全体を包み込む中、1本のチェロがすすり泣くようなメロディを歌う。そのメロディはいつしか時空を超え、時にはバロック時代のチェンバロによって変奏され、時にはクラブ・ミュージックの電子音の中に溶け込み、時には天使のようなソプラノの鎮魂歌に変わり、時にはバッハ風の無伴奏ヴァイオリンに姿を変え、最後には後期ロマン派交響曲のようなクライマックスを築き上げる——。ルネサンス時代から20世紀後半までの音楽史をタイムトラベルで駆け抜けるように、たったひとつのメロディが変幻自在に姿を変えていく《メモリーハウス》は、近作《ウルフ・ワークス》や《スリープ》でも変奏曲形式を用いて成功を収めたリヒターの原点というべき“21世紀のシンフォニー”。ピアノ・ソロからフル・オケまで、多種多様な編成が入れ替わり立ち替わり演奏する特殊な構成ゆえ、CD録音後、実演までに12年の歳月を要した大作だ。とりわけ第10曲「November」は、19世紀ロマン派ヴァイオリン協奏曲に勝るとも劣らない超絶技巧が要求される難曲中の難曲。陶酔的なミニマルの反復を完璧に弾きこなすテクニックと、情熱的で官能的な音色を併せ持つマリ・サムエルセンのようなソリストが「November」を弾く時、リヒターの音楽に潜む耽美的な世界観に心を奪われるはずだ。しかも今回の日本初演に際しては、2016年ライブツィヒでの演奏を成功させた指揮者クリスチャン・ヤルヴィやソプラノのグレイス・デヴィッドソンなど、《メモリーハウス》に欠かせないアーティストが東京に集結。さらにリヒター本人も演奏に加わり、ライブならではの圧倒的な迫力と幻想的な音空間を実現する。



『Max Richter:
November-Single Edit』
マリ・サムエルセン(ヴァイオリン)
ジョナサン・ストックハンマー指揮ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団
録音:2016年 ■ ユニバーサル ミュージック合同会社(配信限定)

21世紀のシンフォニー
音楽史をタイムトラベルする

Kristian Jävi Sound Experience 2019
Memoryhouse

マックス・リヒター 《ブルー・ノートブック》 《インフラ》

2019年3月9日(土)
18:00開演(17:30開場)

リヒター／
ブルー・ノートブック
インフラ(アジア初演)

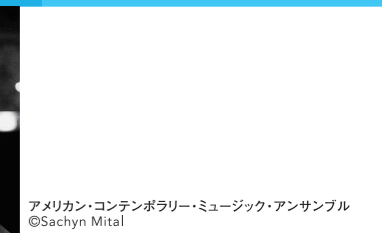
マックス・リヒター
[ピアノ、エレクトロニクス]
アメリカン・コンテンポラリー・
ミュージック・アンサンブル
サラ・サトクリフ[朗読]

S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000

※すみだ区割・すみだ学割あり



マックス・リヒター
©Rahi Rezvani



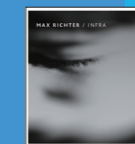
アメリカン・コンテンポラリー・ミュージック・アンサンブル
©Sachyn Mital



暴力から解き放たれた平和を祈念するため、リヒターが自身の室内楽の代表作2曲を演奏する3月9日は、ちょうど東京大空襲の前日にあたる。2006年に発生したロンドン地下鉄テロ事件の犠牲者を追悼すべく、シュベルト《冬の旅》のモチーフを引用しながら現代人の孤独な旅を表現した《インフラ》。2003年、大量破壊兵器捜索を目的に始まったイラク戦争の不条理に苛立ちを覚えたりヒターが、不条理の作家カフカのテキストを朗読パートに用い、ピアノと弦楽四重奏を中心とする純度の高い音楽と、教会を思わせる音響空間で反暴力を静かに訴えかけた《ブルー・ノートブック》。暴力と隣合わせの現代の中でリヒターが問いかけるカフカ的不条理は、そのまま東京大空襲の歴史についても当てはまる。なぜ、10万人の命がたった一晩のうちに失われなければならなかったのか? その疑念が心を曇らせる時、《ブルー・ノートブック》の中で演奏される「オン・ザ・ネイチャー・オブ・デイルイト」(映画『メッセージ』のテーマ曲)の清澄な響きが、一筋の光のように希望を与えてくれるだろう。



『ブルー・ノートブック』
■ UCCH-1050 / ユニバーサル ミュージック合同会社
(国内盤2月20日発売)



『インフラ』
マックス・リヒター(ピアノ、エレクトロニクス)、
弦楽五重奏
[ルイザ・フロー、ナタリア・ボナー(ヴァイオリン)、
ニック・バル(ヴィオラ)、
イアン・パーシ、クリス・ウォーシー(チェロ)]
■ UCCH-1042 / ユニバーサル ミュージック合同会社

名曲「オン・ザ・ネイチャー・オブ・デイルイト」が奏でる、平和への祈りと希望

The Blue Notebooks
Max Richter
Infra